

令和7年度 小金井市立南小学校 授業改善推進プラン

1 授業改善の方針

○基礎学力の向上を図る。(ICT の効果的な活用)
○児童一人一人の特性を踏まえた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
○「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを図る。(ICT の効果的な活用)

2 児童の現状分析

(1)全国学力・学習状況調査

教科を中心とした学力・学習状況	○国語・算数・理科の学力は全国基準を上回っている。ICT を活用した学習状況は大きく全国基準を上回っており、学校として ICT を活用し、学習を習得させられていることがわかる。国語に関する意識と理科に関する意識は全国基準を下回っているため、今後の課題である。
その他の学力・学習状況	○主体的な学習の調整と読書等は大きく全国基準を上回っている。自由進度学習などの成果と考えられる。一方、学習習慣と向社会性については全国基準を下回っているため、今後の課題である。

(2)児童・保護者・教職員アンケート

1年生	○素直で何にでも楽しんで取り組むことができるが、気が散りやすく自制がきかない。目的や目標が理解できると、協力して活動できる力がある。
2年生	○新しい学習や活動に意欲的な児童が多い一方で、既習の読み書き、計算や量感覚など基礎基本の学力に課題がある児童もいる。
3年生	○新しい学習に意欲的な児童が多い一方で、個々の中で得意な教科、苦手な教科がはっきりし始めている。
4年生	○学習に対して意欲的に取り組める児童と取り組めない児童の差が大きく、学習内容の理解が難しい児童が多い。学習内容の定着が課題であり、思考力を高める学習活動をスモールステップで取り組ませる必要がある。
5年生	○自然や生き物、社会的事象に興味をもっている児童が多く、学習に対して意欲的に取り組むことができる。一方で学力差が大きいと、学び合うことで高め合う必要が高い。また、自己決定し実行する力に課題がある。
6年生	○課された課題には取り組むことができる。一方で、物事を多角的・多面的に捉えることや、自分なりの考えを形成し、それを表現することに課題がある。

3 各教科等における授業改善の視点

国 語	低学年	○読み聞かせ、読書、音読などの学習活動を重視し、様々な語彙や文章に触れる機会を充実させる。
	中学年	○相手や目的を意識した文章を書けるようにするために、伝えたいことが書けているかについて振り返る機会を意識的に設定する。また、互いの意見や考えを共有する機会を設定し、自分に生かすようにさせる。 ○ICT 機器を用いた活動を取り入れ、自分の意見や考えを書く機会を設定し、表現力を育てる。また、互いの意見や考えを共有することで自分の学習に生かすようにする。
	高学年	○物語文、説明文における読みの視点を児童一人一人がもてるようにすることで、主体的に考えることができるようにする。 ○語彙を増やすために、日常の読書量を増やす。読書10000ページ、ブックトークの取り組み等を取り入れる。
社 会	中学年	○学習問題を明確にし、追究する活動を取り入れ、実際に見たものや調べたことから考えまとめることができるようにする。 ○資料から分かることや考えられることを発表し合う時間を設け、学習していく問題をクラス全体で共有できるようにする。
	高学年	○ICT 機器を有効に用いて適切な資料の提示や情報の共有を行い、調べる際に視点を明確にし、資料から必要な情報を読み取る力を育てる。

		○ICT 機器を有効に用いて適切な資料の提示や情報の共有を行い、複数の視点をもちながら社会的事象への考えを広げられるようにする。
算 数	低学年	○具体物を使ったり、身近な場面を学習に結び付けたりして、学習に取り組みやすいようにする。 ○練習問題の時間を十分に取、計算力などの基礎基本の学力を身に付けられるようにする。
	中学年	○デジタル教材や具体物を活用して共有・統合の効率化を図ることで知識・技能の定着を図りながら思考を深められるようにする。 ○授業終わりには、今日の学習で分かったことや疑問に思ったこと、練習問題を解く時間を確保する。何を学んだかを児童が確認し、振り返れるようにする。
	高学年	○ICT 機器やデジタル教科書のアニメーションを活用することで考え方の効率的な共有を図り、学習を深められるようにする。 ○課題把握、課題解決に向けた見通しや自分の考えをもつことができるように、対話の時間を十分にとる。
理 科	中学年	○実験や観察をできるだけ個人で取り組めるように環境を整え、学習に意欲的に参加できるようにして、自分で考察する機会を増やす。 ○ICT 機器を活用し、実験の様子や実験結果について記録できるようにする。その結果から考えられることや、分かったことを対話を通して学ぶことができるようにする。
	高学年	○既習事項や日常生活を理由の根拠として考えたり、観察や実験を既習の内容と比較して考察したりできるようにする。 ○ICT 機器を効果的に使用することによって、学習の理解を視覚的に補助したり、学び合いのツールとして活用したりする。
生 活	低学年	○児童の思いを取り入れながら、地域の学習材を生かし、体験的な学習ができるようにする。
音 楽	低学年	○友達と一緒に歌うこと、様々な楽器を触り、合奏することを通して音楽活動をする楽しさを味わえるようにする。 ○友達と関わりながら、声や身の回りの様々な音に親しめるようにする。
	中学年	○音楽の良さや感じたことを ICT 機器、拡大楽譜など活用し言語化・視覚化し、共有できるようにする。
	高学年	○新たに学ぶ単音、短いフレーズ、大切な箇所を全員リレー形式、スモールステップで行い定着させる。
図 画 工 作	低学年	○身近な題材を用意し、児童が興味関心をもって、より豊かな発想のもとに取り組めるようにするとともに、道具の基本的な使い方を指導し、活用できる場と時間を設定する。
	中学年	○自他の作品の価値を理解し、鑑賞したり、描画や工作などの作品に真剣に取り組もうとしたりする態度を養う。 ○写真撮影など ICT 機器の基本的な活用を体験させ、視覚的な図工科としてのセンスを養う。
	高学年	○自分がイメージしたことを、自分なりに工夫した描画方法や工作方法で表現し、作成しようとする態度を養う。 ○ICT 機器を活用して適切な情報収集を行い、自他の作品を鑑賞し、感想を書くことを通して、自分の知識や感性を養うことができるようする。
家 庭	高学年	○調理実習や裁縫などの実践経験を工夫して行い、日常生活に必要な技術を養う。
体 育	低学年	○友達と関わり合ったり、様々な運動遊びを経験したりすることを通して、体を動かすことの楽しさを味わわせる。
	中学年	○児童の実態に応じたいろいろな場を用意し、基本的な動きや技能を身に付けられるようにする。 ○ICT 機器を活用し、お手本と自分を比較するなどして、技の獲得や向上につなげる。
	高学年	○ICT 機器を活用して自分の運動動画や模範演技動画を参考にし、明確になった課題について練習を重ね、技能の成長を捉えることができるようにする。
外国語	中学年	○関わり合う活動を通し、友達と楽しみながら外国語に親しむようにする。 ○ゲームや歌などの活動を多く取り入れ、楽しみながら表現に慣れ親しむようにする。
	高学年	○「新しい表し方を知る→活用する→アウトプットし力を高める」を繰り返し行う。 ○ALT とのやり取りを多く取り入れる。また、授業の最後に ICT を使って学習の振り返りを行い、学習の成果を明確にする。
道 徳	低学年	○場面絵や道徳的価値に迫る問いを ICT 機器等で示し、対話を通して自己の生き方について考えるきっかけをつくるようにする。

	中学年	○導入の時間では、今までの経験や体験を振り返る時間を取る。
	高学年	○児童同士で議論をする時間を設け、多様な考えに触れる中で自分の考えを深め、自己のよりよい生き方を考えていけるようにする。 ○対話の時間を通して、多様な視点から語り合うことで、自己のよりよい生き方を考えていけるようにする。
総 合	中学年	○児童の話し合いから課題を設定し、主体的に課題に取り組むことができるようにする。また、活動後に視点を与えて振り返りを行うことで、次の活動への意欲を高める。
	高学年	○子どもの「～したい」を大切にした単元作り、授業づくりを進める。 ○地域の材を生かし、子どもの「～したい」を大切にした単元作り、授業づくりを進める。